

ITOSUGI

いとすぎの丘



災害救護演習

Pick Up



災害救護演習の授業で、本学を会場に開催された日本赤十字社愛知県支部主催の災害救護員研修に3年生が参加しました。(平成22年1月21日、22日)

本番さながらの災害訓練に本学学生も傷病者や家族役として参加し、災害時に必要な看護を学びました。

- 第3期生卒業特集
- 学生生活
 - 災害救護演習
 - 臨地実習
 - サークル活動紹介
- 大学の活動
 - 公開講座
 - FD講演会
 - Academic Library
 - 研究の窓
- Information

第3期生卒業特集

平成21年度 日本赤十字豊田看護大学卒業式



感謝のころ

卒業生 羽生 将人

日本赤十字豊田看護大学第三期生として卒業を迎え、改めて自分が看護師になるということを実感しています。思い起こせば入学式の時には男の学生は何人いるのだろうか？なんて不安に思っていたこともありましたが、また、テスト前になると友達と情報を共有し、必至に勉強していたことを懐かしく思います。実習では教科書では学べないことを肌で感じ、患者様を看護する喜びと現場の空気を実感することができました。自分の未熟さを支えてくれたのはメンバーや先生方、指導者さんであり、何よりも患者様の「ありがとう」の言葉が励みになりました。

振り返るとこの4年間、決して自分ひとりの力だけでは学生生活を送ることはできませんでした。看護の基本を教えてくださいました先生方、自分の悩みを親身になって聞いてくれた友達、大学生活のアドバイスをくれた先輩方、



後輩達のおかげで今の自分があるのだと思います。

次のステージでも人と人との出会いを大切にし、感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思います。

多くの出会いに支えられて

卒業生 石原 実香

私は、今から四年前にこの日本赤十字豊田看護大学に入学し、今ではもう卒業を間近にしています。四年間を振り返ってみると、大学で出会った友達、先輩、後輩、先生に事務の方というように多くの人の顔を思い出します。ここは、看護学の単科大学なので、学内には人で溢れかえるというような光景は滅多にありませんが、素敵な出会いが沢山ありました。日々の学校生活では友達と笑い、先輩にアドバイスを頂いたり、逆に後輩にアドバイスをしたりしました。事務局の前を通るときにはいつも、学生のために支えてくれる事務局スタッフの方々の姿が





目に入りました。そして先生方からは、毎日知識と熱意、癒しをいただき充実した学校生活を過ごすことができたと思います。何といても、看護学生最大の山場である国家試験受験にあたっては、大学で出会った多くの人たちに勇気づけられました。試験当日も、これらの励ましの言葉を胸に抱き、自分を信じて実力を発揮することができました。これからも、出会いは沢山あると思いますが、この大学での沢山の出会いを今後も大切にしていきたいと思います。

新たな希望に向かって 進む先輩方へ

3年 徳武 真由子

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

大学生活を振り返っていかがでしたか。一人一人が描く看護師像、保健師像を目指して仲間と走った日々は先輩方のところに大切な思い出として残ることと思います。



大学生活において、先輩方は良きリーダーとして私たち後輩を引っ張っていただきました。一番印象深いのは大学祭です。まだ歴史が浅い我が大学のいとしき祭、体育祭を盛り上げようと企画し、遅くまで学校に残り、私たちだけでなく地域の方々にも喜んでいただける最高の大学祭をつくりあげていただきました。

また、卒業研究時にアンケートをとる研究熱心な姿や、実習先において定評のある姿勢など先輩方が、その行動で示してくださるものもたくさんありました。

私たち後輩はこのような素晴らしい先輩方と共に大学生活を送ることができたことを大変嬉しく思います。先輩方がこの大学を卒業されることは寂しいことですが、先輩方が築き上げてくださったものを大切に、今度は私たちが受け継いでいきたいと思っています。まだまだ未熟な私たちですので、どうか時々是我们後輩のためご支援下さい。

卒業されてからも、この学校で学んだ知識や経験、想いを忘れずにそれぞれの希望に溢れる道へ大きく羽ばたかれますよう、お祈り申し上げます。

先輩方はこれからも私たちの尊敬する先輩です。2年間本当にありがとうございました。

災害救護演習

看護師にしか出来ないこと

4年 毛受 亮子

「患者さんの怪我・疾病を見るのではなく、患者さんを1人の人間として捉えて全体を見る」1年生の時に看護学の授業で習ったことであり、今回の災害救護の授業を通して実感したことだ。この授業では、災害時の状況を想定して赤十字病院の医師や看護師と一緒に訓練を行った。



学生は傷病者役である。私は傷病者として実際に応急手当や治療を受けてみて、看護師という職業はすごいと思った。災害時という予期せぬ状



況においては、怪我の有無に関わらず、誰しものが不安と恐怖でいっぱいである。その時に、ただ側にいて話を聞いてくれる、「もう大丈夫ですよ」と声をかけてくれる、手を握っていてくれる、笑顔を向けてくれる、そのような些細に見える配慮で、不安と恐怖でいっぱいだった心が落ち着いていくのだ。これは看護師独自の素晴らしい点だと思った。患者さんの怪我や疾病の状態を確認し処置するのも大切なことだが、患者さんと向き合い、心のケアを行えるのは、看護師ならではだと感じた。これから先、実習や就職後、臨地において様々な患者さんと出会うだろうが、この志を忘れずに患者さんに接していきたいと思う。

臨地実習

実習で学んだこと ～「看護」の楽しさ、喜び～

4年 京元 優紀

私は実習での患者さんとの日々のかかわりを通して、自分自身が選んだ看護師という職業にやりがいや魅力、誇りを感じました。

実習が始まる前、私は、患者さんはどんな人なのか、自分の事を受け入れてくれるのか、また、私自身は患者さんのことを真剣に考え正しい援助、ケアができるのかなどとてもたくさんの不安を抱えていました。しかし実際に実習で私が出会い、援助した患者さんはみな私を一人の人間としてとても頼りにしてくれました。そのことで私も患者さんのために何かしてあげたい、少しでも患者さんが望むような、幸せな気分になってほしいと心の底から思いました。

また、患者さんの抱えている問題に対して、自分ができる援助を行ったり、日々接していく中で毎日変化のある患者さんの反応が返ってくるということに看護の楽しさ、おもしろさ、喜びを感じました。ケアしたら、それで終わりではなくその反応が返ってくる。つまり自分が患者さんに行った援助、アプローチの分だけ患者さんも私自身も満足感を得られ人間としての成長があるのだと思いました。そう思うのは自分だけの自己満足かもしれませんが、試行錯誤を繰り返しながら患者さんに届くような本当の力になっていくのではないかと思います。

そして、看護はいつも前進していかななくてはならないということも感じました。看護には終点がありません。いつも成長していかなければならないと思います。たとえ同じ病気の患者さんでも一人ひとりに対する援助はすべて違ってきます。また同じ患者さんでも一日一日、一時間一時間常に変化しているのです。だからいつも考え、悩み、その場その時の患者さんにとっての最善のケアを考えていくことが大切だということを感じました。

私には今学びたいことがたくさんあります。今回、実習を通して自分の未熟さを感じたからです。それを教えてくれたのが患者さんです。

今は、学生として吸収していくことがたくさんあって病院にいくたびに、また患者さんと接するたびに自分の中身が詰まっていくような感じがします。体は疲れるけれど、頭の中や心の中は満足感でいっぱいです。

実習は、記録物の多さやカンファレンスの準備、病院という慣れない環境下で辛くなることもあります。グループメンバーで支えあってそれぞれが学校では学べないことをたくさん学んで成長し、みんな充実感でいっぱいです。

辛いだけが実習ではない。もちろん辛くなることもありますが、それ以上に自分にとって得るものが大きく成長できるチャンスです。看護の楽しさ、喜びを味わえます。だからこれからも自分なりの看護観を模索しながら成長していきたいです。そして広い視野で人を見つめていける、そんな風になれるように努力していきたいと思っています。



サークル活動紹介

防災ボランティアサークル

2年生 北原 直樹

防災ボランティアサークルは現在7名の少人数で活動しています。現在までに、学祭での心肺蘇生法講習会の実施や、赤十字救護員の養成研修、地域で行われている減災ボランティア養成講座への参加などの活動を行いました。

昨年の夏休みには、サークルメンバーを始めとする学生27名で、赤十字防災ボランティア養成研修会にも参加しました。赤十字防災ボランティアとは、平常時には日赤支部が開催する訓練・研修等に参加し、災害時に必要な知識と技術を身につけ、災害時は支部の調整下、被災者への応急救護や復旧活動などに参加する



個人・団体のことです。看護学部のある大学、専門学校は全国にあります。このような研修には、赤十字の大学だからこそ経験できたことであり、参加者一同有意義な時間を過ごすことが出来ました。

防災ボランティアサークルはまだ人数も少なく、発足してから日も浅いため、恥ずかしながら大きな活動、継続的な活動はこれといってできていません。ですが今後は災害というスケールの大きさから地域と連携した活動や、継続的な勉強会を実施したいと思います。



サークル活動紹介

Fe++サークル

3年 近藤 愛里

こんにちは！Fe++（エフイーツープラス）サークルです。このサークルは他大学の大学祭での献血の呼びかけを主な活動としています。昨年は名古屋大学、豊田工業大学、愛知工業大学、名古屋女子大学、椋山女学園大学、愛知県立大学、名城大学、名古屋工業大学の大学祭に参加しました。なかなか他大学の大学祭に参加する機会は少ないと思いますが、呼びかけをしつつ大学祭にも参加できるので楽しいです。

この他に夏、クリスマス、春に行われる献血キャンペーンにも参加しています。これらのキャンペーンはわたしたちの大学のほかに15大学が参加する大規模なもので、栄などの街頭で呼びかけをします。

これらの活動の中で、呼びかけに苦戦する日もあり



ますが、献血してみたいけど機会がない人や、献血する勇気が出ない人が、わたしたちの活動をきっかけに献血に興味を持ったり、協力したりしてくれることがうれしいです。

参加者の募集はその都度おこなうので、予定が合う時に気軽に参加してください！

公開講座

「赤ちゃん楽しくふれあおう！ ベビーマッサージ」を終えて

母性看護学 助手 水野 妙子

親子のスキンシップは絆を深める働きをしており、赤ちゃんにとって「心の栄養」といわれています。この公開講座では、赤ちゃんとのスキンシップをとる方法のひとつとして、ベビーマッサージについて行いました。

公開講座には、赤ちゃん3名を含む17名の方が受講されました。受講者の年代も20～60代と幅広く、「赤ちゃんにマッサージしてあげたい。」というお母さんや、「マッサージを育児支援に役立てたい。」という方など、受講動機はさまざまでした。

内容としては、実際にホホバオイルを使用して互いにマッサージをしていただきました。「オイルが浸透



して肌がしっとりする。赤ちゃんだけでなく、自分にも使用したい。」とオイルの役割や心地よさを実感していただけたようでした。また、受講者の皆さんにもマッサージを体感していただきながら、マッサージの実技を行いました。

終始、和やかな雰囲気で開催講座を終えることができ、「実際にマッサージをしたい。」との声をいただきました。

最後になりましたが、大変熱心にご参加くださいました受講者の皆さん、ありがとうございました。

FD講演会

赤十字の理念に基づくヒューマン・ケアリングの実践と哲学・倫理

精神看護学 教授 長江 美代子

FD講演内容

平成21年12月21日（月） 14:40～16:10

主催：日本赤十字豊田看護大学FD委員会

講師：日本赤十字広島看護大学名誉学長 稲岡 文昭氏



本学では、FD（Faculty Development 大学教員能力開発）活動の一環として、平成21年12月21日、日本赤十字広島看護大学名誉学長の稲岡文昭教授を講師として「赤十字の理念に基づくヒューマン・ケアリングの実践と哲学・倫理」について講演会を開催した。稲岡教授は、米国留学中に、看護を学問として発展させた歴代の著名な看護理論家や看護実践家と幅広い交流を持つ。ヒューマン・ケアリングの概念は、米国コロラド大学のジーン・ワトソン博士の看護理論により定義づけ

られており、稲岡教授により「人間科学とヒューマンケア」として日本に翻訳紹介されている。講演会は教職員だけでなく学生にも広く公開実施された。

以下に講演の概要を報告する。

赤十字の理念に基づく看護の実践は、学生だけでなく現職の看護師にとっても困難を伴うことがある。このような中であっても、赤十字の看護教育は「区別無く他者の痛みや苦しみに、自らかけより援助の手をさしのべる（樋口康子）」と表現される。一方ヒューマン・ケアリングは、患者は看護師がさしのべた手を受け止め、自分を振り返り、看護師に対して何らかを発信する。この瞬間に看護師と患者は結びつく。このような両者のフィーリング、考え方、エネルギーの交流によって心身の内的調和が得られ、ともに自然治癒力を増し、苦痛・苦悩を癒し、人間を成長させる（ワトソン）。赤十字の原則とヒューマン・ケアリングの主要概念を包括したものが、赤十字の看護教育の理念といえる。

稲岡教授は上記について、1985年のJAL123便墜落時の日赤看護師の救助活動や、看護学生の実習場面の事例など具体的な内容とともに説明された。赤十字の看護教育の独自性について、学生も教職員も共に認識するよい機会となったと考える。



Academic Library

看護という営み

司書 中尾 明子

ここに、待ちに待った一冊の雑誌がある。「現代のエスプリ」第510号（2010；ぎょうせい）である。なぜ、待ちに待ったかという、前号（第509号、2009）巻末の“次号のおしらせ”にこう書かれていたからである。

「看護という営み ―最良のナースが育つことの大切さ」

看護という営みの起源は古いが、本号ではナイチンゲール論からその発展を紐解き、人間の生老病死の現象を多角的に見つめる。「人は自分と病気との関係の説明や納得を求めて病院に出かけるが多くの場合診断名をもらって帰ってくる」と言われる時代にあって、最良のナースが育つことの大切さを看護の担い手と受け手が共に考えた。



○手前:Virginia Henderson“Basic principles of nursing care”
背後:“Florence Nightingale and the birth of professional nursing”ほか

研究の窓

医療崩壊と人間関係

専門基礎 教授 石黒 士雄

最近新聞、テレビで医療崩壊が進んでいるとよく報道されます。その主な原因が労働環境にあるとされ、勤務医の待遇改善が求められています。どうも、きつい仕事は避ける傾向があるようです。私の若い頃も今も仕事内容は同じようなものだと思いますが、患者との関係が今よりずっと良かった気がします。今から30年ほど前、小児専門の病院で働いて



○現代のエスプリ No.510 (2010,ぎょうせい)

論文情報ナビゲータCiNii（サイニー <http://ci.nii.ac.jp>）で調べると、「現代のエスプリ」第500号（2009年3月）までに、キーワード「看護」が載っている論文は4,089件中、たったの57件である。この一般総合雑誌に「看護」がテーマとして取り上げられたのである。看護学が広く一般に認められたようで、看護図書館員として大変嬉しく思う。

ナイチンゲールからヘンダーソン、そしてローパーらへと継承された看護論、広がりつつある看護職の活躍の場、高度医療を担う専門看護師の紹介、そして最後は看護教育の章で終わっている。まさに、看護の過去、現在、そして教育という未来がこの一冊に、凝縮されているのである。図書館員としては、直接手にとって読んでもらいたいが、もし貸出中で読めない場合は、当館OPAC（<http://tosho.rctoyota.ac.jp>）でも、「看護という営み」で検索し、内容細目をクリックすれば、目次情報が見られる。読みたくなること、間違いなし！

いた時のことです。赤ちゃんの手術では感染対策が重要ですので、私の最初の研究は赤ちゃんの免疫の発達についてでした。赤ちゃんの免疫がどう発達してゆくのかを調べるために、夜だけ他の病院に泊まりこんで正常な赤ちゃんのおしっこを集めたことがあります。もちろん昼間は自分の病院で仕事を済ましてからです。目的は尿の中の免疫グロブリン量がどう変化するのかを調べることでしたので、30人ほどの赤ちゃんのおしっこを出産から退院（1週間程度）まで毎日試験管に集めるのですが、とても大変でした。相手は赤ちゃんなので、おちんちんにパックを貼るのですが、剥がれやすくして何回もお母さんのベッドのそばで貼りなおしました。変な人（私のことです）が夜になると病室に出入りして大事な赤ちゃんのオムツをとったりおちんちんを覗いたりするのだから不安ですよね。しかし、当時のお母さんたちはとても協力的で1ヶ月ぐらいで集めることができました。そのおかげで、私の手元には医学博士の免状があります。今だと許してくれないかもしれませんね。やはり重要なのは人間関係だとその時に実感しました。

Information

大学院 看護学研究科 看護学専攻(修士課程)開学!

高度な専門性と研究力を養い看護学を推進する人材を育成することを目的に、平成22年4月大学院を開学し、7名の第1期生を迎えました。

研究・教育者コース（看護管理学・臨床実践看護学（成人急性期・母性・精神）・地域生活看護学）と専門看護師コース（母性看護学・精神看護学）の2コースを設置しています。

また、2年間の学納金で3年間学習することが出来る長期履修制度や名古屋市内（名古屋市東区白壁1-50 赤十字会館内）にサテライトキャンパスを設置し、在職しながら学べる環境を整備しています。



サテライトキャンパス(名古屋市)

オープンキャンパス2010開催

- ・ 5/29(土) 10:00～15:00 ミニオープンキャンパス（「いとすぎ祭」開催時に開催）
- ・ 7/24(土) 10:00～15:00 オープンキャンパス
- ・ 8/28(土) 10:00～15:00 オープンキャンパス

お申し込みは本学HP申込フォームまたは電話、ハガキ、FAX等に氏名、住所、連絡先、学校名、希望日を明記の上、企画・地域交流課まで申し込みください。

公開講座2010(4月～9月)開催のお知らせ

一般の方を対象に「楽しく 学ぼう!健康ライフ」をテーマとした幅広い内容の講座を全8回開催します。

お申し込みは本学HP申込フォームまたは電話、ハガキ、FAX等に氏名、住所、連絡先、ご希望講座を明記の上、本学企画・地域交流課まで申し込みください。参加は無料です。

講座・担当者名	日 時	内 容	定 員
こころの健康シリーズ第1回 「ちょっと変わった人たち ～アスペルガー症候群の子供たちと大人～」 専門基礎 教授 端谷毅	平成22年6月12日(土) 13:00～14:30	こだわりが強く、対人関係が不器用な人たち。生きづらさを抱えている人たち、どう接すればいいのか、特性を活かすには。アスペルガーの特徴と対応方法についてお話します。	50名
「笑い与健康～笑いの実践トレーニング編～」 基礎看護学 教授 杉浦美佐子	平成22年7月10日(土) 10:00～11:30	昨年好評だった笑い与健康に関する講座の実践編!生活に笑いとユーモアを取り入れる練習を、実践をまじえながら行います。	30名
こころの健康シリーズ第2回 「お父さんちゃんと眠れてる? ～眠れないのは、うつのはまりかも～」 専門基礎 教授 端谷毅	平成22年9月25日(土) 13:00～14:30	現在、うつは「こころの風邪」といわれるぐらいに多くの人が罹っています。「うつ」はどんな病気ですればいいのかをお話します。	50名

※なお、後期(10月～3月)は5講座を予定しています。詳細は本学HPをご覧ください。

平成22年度入学試験志願者状況

入試区分	定員	志願者数	合格者数	入試区分	定員	志願者数	合格者数
一般入学試験	55	466	142	日本赤十字社中部各県支部長 推薦入学試験	30	38	38
社会人特別選抜入学試験	5	9	5	合 計	120	561	215
高等学校長推薦入学試験	30	48	30				

編集後記

「いとすぎの丘」Vol.11では、全体の構成をより見やすくリニューアルしました。特集として第3期生卒業、その他に臨地実習での学びや災害看護演習、サークル活動、例年の活動である公開講座、FD講演会について紹介しました。さらに、この春第1期生を迎えた大学院の概要とサテライトキャンパスについても近況を報告しました。本冊子が無事発行できましたことは、皆様のご協力あってのことと心より感謝申し上げます。

いとすぎの丘 Vol.11

発行日/2010年4月

編集・発行/日本赤十字豊田看護大学

広報・公開講座委員会、企画・地域交流課



〒471-8565 豊田市白山町七曲12-33

TEL 0565-36-5228 FAX 0565-37-8558

E-Mail kikaku-ka@rctoyota.ac.jp

HP <http://www.rctoyota.ac.jp/>